

2025年度大学院入試問題（2025年2月16日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【1】

【解答欄】

設問1

B：Bの特徴は、直線上で誕生時と死亡時が右に偏っており、誕生時の前が長くとられていることである。このことは、人類の、あるいは、地球や宇宙の長い歴史を考えたとき、自分の一生はそのほんの一部にすぎないという考え方を示していると推測される。

C：Cの特徴は、自分の死の後に現在の下限があることである。肉体の死そのものが現在の終了ではなく、死者を送り出す儀式（葬儀や埋葬）が終了したときが、その人の社会的存在が終わるときであるという考え方を示していると推測される。

設問2

大学生はラインの左端を誕生時、右端を死亡時とし、ライン全体を自分の一生を示すものとして考えている。また、大学生では、現在は左寄りに示され、死亡まで多くの時間が残される形になっている。高齢者は、現在が右に寄っていること、誕生の前、死亡の後に時間があることが大学生と異なっている。この異なりの背景には、大学生は自分の人生を中心に時間をとらえていて、現在の先の人生の長さを考えているのに対して、高齢者は、様々な誕生や死を経験し、自分の一生を客観的・俯瞰的な視点でとらえているという違いがあることが推測される。

(受験番号

)

2025年度大学院入試問題（2025年2月16日実施）

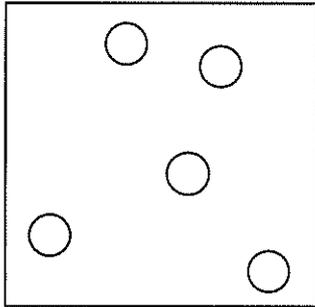
言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【2】

【解答欄】

設問1



設問2

小さい語彙条件でも大きい語彙条件でも、トレーニング回数を重ねるとアイコン的語彙も恣意的語彙もエラー率が減少すること、トレーニング回数30回くらいまでは、アイコン的語彙の方がエラー率が少ないことは共通している。しかし、大きい語彙条件では、トレーニング回数が60回をこえたあたりから、恣意的語彙のエラー率がアイコン的語彙のエラー率より少なくなっていく。

設問3

言語獲得の初期では、アイコン的なわかりやすい語彙が獲得されやすい。しかし、アイコン的な語彙は、語形や音に制約が大きく、多くのモノ・コトを表しきれない可能性がある。発達とともに、子どもはより多くのモノ・コトを認識できるようになり、それとともに、語形や音をとらえる能力も発達し、アイコン的語彙の制約を超えた恣意的語彙の獲得が始まると考えられる。

設問4

語彙のサイズにより異なる（12文字）

2025年度大学院入試問題（2025年2月15日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【3】

【解答欄】

設問1

高齢者とのコミュニケーション場面では、例えば、耳の聞こえが悪いと思われる場合には、少し大きな声で聴きとりやすいように話をするのが大切である。しかし行き過ぎた対応はかえって、高齢者の自立を妨げることにつながる。他には、人と話すことを避けることで、鬱的になる、自信をなくす、社会参加の機会が減る、自尊心が傷つけられる、自主的な行動が少なくなる、その人らしい趣味を行わなくなるなどのことが考えられる。

設問2

まず、お年寄りだと認識した後に「コミュニケーション力に対するステレオタイプの予期」を持たないようにすることが必要だと思われる。年齢は高齢であっても、聴覚機能、視覚機能、記憶力、行動力、意欲、知的な能力などは、人それぞれである。ステレオタイプ的な見方をするのではなく、その人の特性や様子、性格などを見極めて、その人にあった対応をしていくことが大切である。

その後の「言語行動」についても、高齢者だから「限られた話題を行う」、「単純化した話題にする」、「大きな声で話す」、「誇張した非言語行動をとる」のではなく、その人の趣味や、その人のコミュニケーション態度に合わせて、柔軟に対応していくことが必要である。

(受験番号)

2025年度大学院入試問題（2025年2月15日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【4】

【解答欄】

設問1

この文章の意味をきちんとは理解することができなかった。

それぞれの一文に書かれていることはわかるが、最初の説明に書かれているように、「大きな文脈」が示されていないため、何について書いてある文章なのか、不明であった。

設問2

大きな文脈として、この文章のタイトルは「洗濯」であると提示されているため、前のページの文章は、洗濯場面を想像することによって、容易に読み取ることができた。

大きな文脈が先に提示され、トップダウン的に文章を読み進めることで、このように理解が違うことがわかった。

設問3

本文最後に、教室場面での授業の例が挙げられている。特に、教室での学習場面では、未知のことを学ぶことが多い。したがって、授業の最初に、大きな文脈や本日学ぶべき内容を示されると、学習に対する構えを作ることができると思われる。今、この段階のことを学んでいる、教師の説明はこのことの補足説明をしている、などのことがわかり、自分自身の学びの位置づけや次なるステップを知ることができると思われる。

2025年度大学院入試問題（2025年2月16日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（ 専門科目 ） 試験時間：（ 90分 ）

【5】

【解答欄】

設問1

日本人は、小規模な発見や改良よりも、大規模で理想的な理論の発見や理論体系の構築に心すべきである。

設問2

一般に「絵にかいた餅」は、どんなにおいしそうに描かれていても食べることはできないことから、実用的価値がない理想像についてネガティブな意味で用いられる。しかし、問題文のなかでは、日本人はこの表現を過小評価する傾向が強すぎると書かれており、「絵にかいた餅」を高く評価する姿勢を示している。この筆者は、新しい理論を見出したり、理論体系を構築するような理想像は、今すぐに役立つような実用的な価値がなくとも、やがて非常に高度のものを生み出しうるという点で、規模の小さな実的なものよりもはるかに大きい大規模な価値を有しているのだということを主張している。

2025年度大学院入試問題（2025年2月16日実施）

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期・言語聴覚研究コース）

試験科目：（小論文） 試験時間：（60分）

【解答欄】

設問1

59名のうち24ヵ月齢児で遅れが見られると判断された児童は、ハンドポインターでは12名中9名であったが、人差し指ポインターでは47名中6名と少なかった。（結果100字以内）

24ヵ月齢時点での言語能力は、単語と文章の理解および産出の課題で調べられ、人差し指ポインターとハンドポインターで、養育者の学歴には差はなかった。これらのことから、12ヵ月齢児がハンドポインターなのかどうか、後の言葉の遅れの指標として有効である可能性が示唆された。（考察150字以内）

設問2

自分自身の働きかけに意味を見出していない養育者ほど、介入が効果を持つことを意味していること理由としては、いくつか考えられる。例えば、乳幼児の言語能力をよい方向に変化させることが可能であることを疑っていたものの、無意識のうちに、人差し指を使う行動を多く行っていた可能性がある。また疑っていたため、この介入の前には乳幼児への働きかけが少なかった可能性も考えられる。（200字以内）

設問3 採点基準

本文と表の結果を踏まえているかどうか。

- ・12ヵ月齢児の指さしなどの行動が、後の言語発達に影響する可能性がある。
- ・養育者の関り方が重要である。 など

子供（12ヵ月齢頃）の言語発達を心配している親御さんへの働きかけが記されている。

- ・子供の言語発達、認知発達、知的発達に関して、親御さんがどう考えているのか伺う。
- ・家庭内や友人とのコミュニケーション場面など、普段の様子を、親御さんに伺う。
- ・相談を受ける施設の職員として、実施可能な検査などを行い、実際の能力を把握し、その結果を親御さんに伝える。 など

親御さんに働きかけるときの注意点や配慮点が記されている。

- ・例えば、検査の結果、現時点で遅れている可能性が示されたとしても、それは可能性であり、今後もそのような状況が続くとは限らないことを伝える。
- ・子供は成長し発達することを伝える。
- ・親御さんが子育てのあり方や自分自身の行動や考え方を責めないように、働きかけるときの言葉使いや態度に十分に気を付ける。 など

文章の論旨が通っているか、文章表現（主語 - 述語など）が適切か、誤字脱字がないか。

(受験番号

)